

国民年金からのお知らせ

平成25年度の
年金保険料が決定

平成25年度の国民年金保険料(定額)は、月額1万5040円(付加保険料400円)になります。この改定に伴い前納保険料も変わります。

〈前納保険料〉

納付方法	1カ月分	6カ月分	1年分
現金支払(月々)	15,040円	90,240円	180,480円
現金支払(前納) クレジット(前納) 【割引額】		89,510円 【730円】	177,280円 【3,200円】
口座振替 (前納)【割引額】	14,990円 【50円】	89,210円 【1,030円】	176,700円(注) 【3,780円】

(注)平成25年度の1年分前納の口座振替は受付終了

また、現在免除に該当している方の保険料も変わります。

〈免除後の保険料〉

区分	種類	保険料
全額免除	全額免除	0円
一部免除	4分の3免除	3,760円
	半額免除	7,520円
	4分の1免除	11,280円

※免除申請は随時受付していますが、所得などの審査要件や免除対象期間があります。

※免除を受けた期間は、定額納付したときに比べ、将来の老齢基礎年金額が減額されます。



詳細は、市民課、各総合支所市民福祉課、または豊岡年金事務所へ問い合わせてください。

学生納付特例申請を 希望する方へ

国民年金は、国内在住の20歳から60歳までの方が加入することになっており、学生でも20歳以上であれば加入して保険料を納めることとなります。しかし、保険料の納付が困難な方には、在学期間中の保険料を後払い(10年以内)でできる「学生納付特例制度」があります。制度を利用すると、不慮の事故や病気などにより障害の状態になったときに受給する「障害基礎年金」や、将来受給する「老齢基礎年金」の受給資格期間に算入されるため、忘れず早めに手続きしてください。

▽対象

対象校に在学する20歳以上の学生で、前年所得が118万円以下(扶養家族がある場合、人数に応じて加算)の方

▽申請に必要なもの

・在学証明書または学生証(両面)の写し

〈承認期間と受付期間〉

申請年度	承認期間	受付期間
平成24年度	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日	平成25年4月30日まで
平成25年度	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	平成25年4月1日 ～平成26年4月30日

・年金手帳または国民年金被保険者資格取得届
・印鑑

※前年度から引き続き制度を利用する方で、平成25年度の申請書(はがき)が届いた方は、必要事項を記入し、4月中旬に郵送してください。4月中旬になっても届かない場合や、学校を変更した方などは、申請に必要なものを持参の上、窓口で手続きしてください。

▽申請窓口 市民課または各総合支所市民福祉課

豊岡年金事務所 からのお知らせ

年金相談窓口を次のとおり時間延長します。
お越しの際には、年金手帳など基礎年金番号の分かるものと身分証明書を持参してください。

なお、代理者のときは対象者の年金手帳など、基礎年金番号の分かるもののほか、委任状と代理者の身分証明書を準備してください。

●4月13日(土)は

午前9時30分～午後4時

●4月1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・30日(火)は

午前8時30分～午後7時

●電話での問合せ

ねんきんダイヤル

☎0570-051165

IP電話・PHS

☎03-6700-1165

●年金個人情報サービス

日本年金機構ホームページ
アドレス
<http://www.nenkin.go.jp/>

《問合せ》

▽日本年金機構 豊岡年金事務所

☎22-0948

▽市民課市民係

☎21-9015または各

総合支所市民福祉課

ふるさとづくりのために
環境経済に取り組んでいます！

石井鞆工業株式会社(高屋)

「かばんの端材を活用した競走馬用くらの製造」

29



「環境を良くする事業で経済効果が生まれることにより、環境と経済は互いに発展し合う。」このような環境経済型事業に取り組み企業にインタビューします。

《問合せ》経済課 経済係 ☎ 23-4480

「かばんの端材を活用した競走馬用くらの製造」

当社では、もともと「廃棄物」をできるだけ出さない方針で、かばんづくりをしています。

かばんの端材は大きく、量も多いです。その端材で、ベルトなどの皮製品を作り、廃棄物を減らしています。

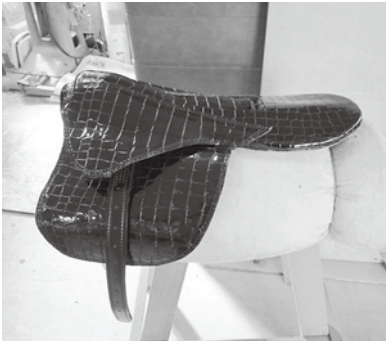
この取組みを続けるうちに、取引先から「競走馬用くらは作れないか」と提案があり、製造に踏み切りました。

「お客様の反応は？」

昨年から製造に向けて取り



▲かばんの端材



▲競走馬用くら

組んでおり、主に乗馬が盛んなヨーロッパから引き合いが来ています。

現在、日本には、競走馬のくらを専門に生産している業者はありません。しかし、日本製「高品質」というイメージがヨーロッパには根強く残っており、メイド・イン・ジャパンのくらは、興味を持って受け止められています。

「製造にあたっては？」

かばんの製造とくらの製造は、技術的に似通っており、かばんの製造のノウハウを流

用できます。

最初は、見本となるくらを取り寄せて、見よう見まねで試作品を作り、検討を重ねました。その後、実際に使用してもらい、不具合のある部分を修正したり、機能的に優れたものにするために改良を重ねました。現在も、試行錯誤を重ねています。

「どの程度廃棄物を削減できますか？」

端材をくらの材料に活用することで、廃棄物の量を半分に減らせます。

「課題や今後の展開は？」

端材を使うということとは、かばんの生産があつて初めてくらの原材料ができるということですが、かばんの生産量が少ない時期は、くらの生産量も限られます。また、繁忙期には、くらの生産まで手が回りません。生産できる時期に限られるのが課題です。

今後、どの程度需要があるか分かりませんが、さらなる工夫を重ねて、より良い製品をお客様に届けたいです。

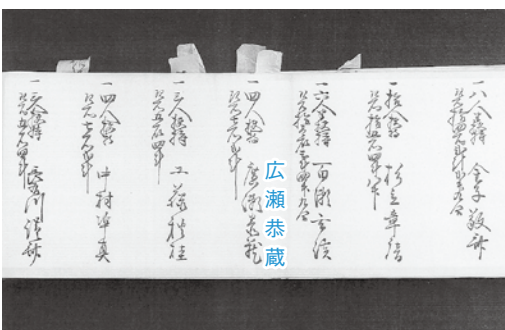
※詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.ibc-bag.com/>

NHK大河ドラマ「八重の桜」④ 出石藩医の子？—川崎尚之助—

「村医者の三男坊ですから「長谷川博己さん演ずる川崎尚之助のセリフです。藩士の川崎才兵衛の子じやないの？」あるいは「ネットでは出石藩医の子とあつたけど」と思われた方も多いでしょう。

左の写真は、慶応3(1867)年時点の出石藩医の名簿です。川崎姓はありません。そもそも尚之助を出石藩医の子とする根拠は、大正11年に元会津藩士古川末東がまとめた「古川春英と川崎尚之助」と題する小文が唯一の資料で



▲慶応3年出石藩医名簿

す。古川自身の聞き取りや藩士の筆記録から、尚之助の略歴をまとめたその中に「出石藩医師の子なり」とあります。この部分を筆記した小川涉は、尚之助が教授を務めた藩校日新館に学び、後に会津の藩校教育の沿革史をまとめた人物です。その小川が何の根拠もなく「出石藩医師の子」と書いたとは思えません。

父親とされる川崎才兵衛が医師ではないものの、孫の與祿が慶応3年に藩医の広瀬恭蔵に嫁いだことは出石の史料で分かっています。また、尚之助が蘭学を学んだ大木忠益(坪井為春)は、蘭方医で幕末の薩摩藩主島津斉彬の侍医でした。こうした環境が、彼を出石藩医の子と会津の人に認識させた可能性はあるでしょう。まだまだ謎の多い尚之助ですが、こうした史料を探って彼の実像に迫りたいと思います。

《問合せ》出土文化財管理センター ☎ 26-10033